

関東女子スプリングキャンプ参加報告書

高体連 隈元 ゆみこ

大会名：2019年度 関東女子スプリングキャンプ (S級女性1次審査会)

派遣期間：平成31年4月19日(金)～4月20日(土)

場所：日本女子体育大学体育館

1. 担当ゲームについて

<PGC>

担当するチームがそれぞれ隣同士で第一試合にゲームをしていたので、1Qのみクルーで観戦した。早稲田、筑波共にアウトサイドシュートが多く、リバウンドやピック&ロールへの目の当て方がポイントになるかという話をした。

その後のPGCでは、先日自分自身が担当したゲーム(四県予選)で起こった、新ルールへの対応ミスが起こったケース等のクリップをもとに、新ルールの確認やプレイの捉え方、役割分担についてお互い持っている情報や取り組んでいること、気づいたことなどを出し合い共有した。また、メカについての基本的なこと、クルーワーク、ガイドラインについて確認をした。

<担当ゲーム>

4月20日(土) 筑波大学 対 早稲田大学

CC:隈元 U1:樋口(広島 フレッシュマン) U2:寺島(石川 フレッシュマン)

ゲームの実際

入りは早稲田が良く、少し点差が開いてしまうゲームになりそうな様子ではあったが、徐々に筑波も得点を重ね、4Q後半までどちらに転ぶかわからないゲームとなった。どちらも3Pなどアウトサイドシュート決定力があり、入らなかった場合のリバウンドやルーズボール争いをどう捉えるかがポイントになる場面があった。

前半は特に大きく気になる点はなかったものの、後半になってゲームの様相が変わってきたときに、どのように判定を入れていくか、そこが審判の出番であったように思う。そういった意味では、整理すべき時間帯できちんと整理できていなかったように思う。最後の最後で、明らかなバックコートバイオレーションの判定がこぼれてしまい、それが影響してか、メカが崩れてしまう場面があった。これは、そのことがきっかけになっただけであって、その伏線はそれまでのゲーム展開の中に感じる場面があったので、そういったときにCCとして、クルーとして、こういった伝え方をすれば良いのか、言葉等の引き出しをもっと持たなければならぬと感じた。

ゲーム自体は大きなこともなく、(新ルールへの対応の点でクルーに助けてもらった場面もありました。)無事に終えることができた。

ゲーム後 クルーMTG

新ルールへの対応で、私自身が先週のゲームで失敗したことをもとにPGCで話していたことが実際に起こり、気づいたクルーが訂正してくれたおかげで、処置ミスをすることなく、ゲームを終えること

ができた。

最後の最後で（残り10数秒）、バックコートバイオレーションに対する対応で、T、C共に明らかなものに対しての判定がこぼれてしまったことは、たまたますでに勝敗が決まっている場面だったので、特にベンチのアピールも大きくはなかった。しかし、勝敗がまだわからない緊迫した状況や公式戦として捉えた際に、どうベンチへ対応するか、また、なぜそのようなことになってしまったのか、あの場面でどうすればよかったのかということをついいろいろなケースを想定して話をするのができた。（今回の場合は、Cの確証は薄かったものの、選手の様子も含め、吹くという決断をすべきであったという反省になった。もちろんTも捉えておくべきプレイではあったということも含めて。）

ローテーションのタイミングのずれがいくつか起こる中で、もう少し早めに修正できていれば、最後の最後でローテーションの不具合を招かずにすんだだろうという話も出た。

3人ともに、「このクルーで試合を担当できてよかった」という会話ができたことは、初対面同士で担当するゲームではあったが、短い時間の中で、お互いにコミュニケーションを取り合うことができた成果だと思う。

3. まとめ

まずは、昨年につき、九州ブロック推薦をいただいて、この場に立つ機会をいただけたことに感謝の気持ちでいっぱいです。昨年の1次審査不合格を受け、この1年、何が自分に足りていないのか、何をすべきなのか、色々なゲームを担当させていただきながら、「実践→反省→実践」の繰り返しを積み重ねてきました。一つ一つ積み重ねてきたものを今回のコートで、いつも通りの自分で、決して気負うことなく、クルーを信頼して、リスペクトして、シンプルに実践していくこと。そして、全ては選手のために。そういう思いで今回のコートに立つことができたことが、私にとっては何よりの収穫でした。もちろん、反省点もまた見つかりました。この反省を次に活かすこと、そして、今回の経験を、県内のみならず、ブロックに還元していくことが、今の自分に課せられていることだと思います。日々精進して参りたいと思います。ひとまずは、近くに迫ってきた鹿児島インターハイ成功のために、県内メンバーの協力をいただきながら、いい準備をしていきたいと思います。

今回の審査会受講にあたり、九州ブロック長福岡氏をはじめ、九州上級の皆様、派遣に際して色々ご配慮いただいた原田審判委員長はじめ鹿児島県審判委員会の皆様、そしていつも応援してくださっている方々に感謝し、報告いたします。ありがとうございました。